

豆知識

これは、社内報に小さな空欄が生じた場合の“穴埋め用”として用意していたものです。
今回は、「橋梁編」となります。

橋 (豆知識)



【新しい橋の数】

前回の東京オリンピックが開催された1964年から1980年頃をピークとして、新設橋の数は年間1万橋から現在の1000橋弱に減少しました。一方で、建設50年を超える老朽化した橋の数が2026年には全体の44%にもなると云われており、今後は橋の架け替え工事や補修・補強工事の増加が予想されます。



【入口と出口】

橋の両端には橋名板が掲示されていて、橋の名前が漢字で書かれている側が入口、ひらがなで書かれている側が出口となります。
これは、路線を指定する際に政令によって、必ず国道の始まりとなる起点（入口）と終わりとなる終点（出口）が定められているためです。



【結露凍結】

冬の早朝の橋の上では、スリップ事故に注意が必要です。橋の前後の路面が完全に乾いていても、橋の上だけは路面が凍結している可能性があるからです。橋は地熱の影響がないので、通常の路面よりも温度が下がって凍結しやすいのです。こういう現象を「結露凍結」といいます。



【お城の橋】

戦争を想定した防御施設・城にある橋の型式は、その用途によって“木橋”と“土橋”を使い分けていました。木橋は、裏口である搦手や使用頻度が低い場所など、いざという時に防御に徹して「完全に遮断する虎口」に使われました。一方で、土橋は、「出撃することも想定した虎口」にかけられていました。



【天橋立】

いざなぎ いざなみ
神代の昔、伊邪那岐命と伊邪那美命が日本の国土を作り上げました。その美しさが高天原の神々の間で評判となり、天御中主神があめのみなかつぬし高天原から日本の地を訪れるために橋を造りましたが、その橋の名残が天橋立であると云われています。
天橋立の着地点は、京都府の北部に位置する宮津市の日置にあると伝承されています。



【錦帯橋】

いまから340年ほど前、岩国藩三代藩主の吉川広嘉は、錦川の中ほどに島を築いて橋をかけるという工法を思いつき、9年の研究を経て錦帯橋を創建しました。
初代の錦帯橋は僅か1年で流されてしまいましたが、その後何度も架け替えを繰り返し、2003年に架け替えられた橋が現在の錦帯橋です。



【宇治橋】

長い歴史を持つ伊勢神宮は、20年に一度の間隔で全てを新しく設える「式年遷宮」を執り行います。
清流・五十鈴川に架かっている伊勢神宮へ続く神域の扉とされる宇治橋も20年に一度架け替えることになっています。
宇治橋は、「遷宮」の4年前に架け替えられるのが恒例となっています。

